

## 第64回教育課程小委員会議事録

### 1 日時・場所

2016年1月11日（月・祝） 10:50-17:15 私立海城高校

### 2 参加者

矢島、根本、宮嶋、南島、上村、藤原、小林、田口

### 3 前回議事録案の承認

原案の通りに承認された。

### 4 中教審関連・理数系学会・他研究団体等の情勢報告

- ・12/14、中教審理科WG第2回の会合が行われ、「理科を学ぶ本質的な意義について」及び「三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について」が議論され、その資料を確認した。
- ・12/13、東京理科大学理数教育研究センター・理科教育研究部門主催の研究会「飛びたて！新しい高校理科教育へ」に根本委員が参加し、文科省清原視学官と情報交換を行ったことが報告された。
- ・12/25、日本学術会議人材育成分科会が開催され、初等中等教育の地学領域の用語問題に関して議論を行い、学術会議とJpGUが連携しながら進めることが確認された。これを受けて1/5に分科会委員阪大・佐々木氏と根本委員が、この件について打ち合わせを行ったことが報告された。
- ・1/13、日本学術会議広報・科学力増進分科会・高校理科教育検討小委員会と、文部科学省の教育課程課の関係者で、学術会議の提言に関する懇談会を行い、宮嶋委員が参加する予定であることが報告された。
- ・12/12、日本生物教育会・「教育課程に関する関東・東京ブロック研修会」にて次期学習指導要領での「生物基礎」の内容に関する議論が行われ、藤原委員が参加したことが報告された。
- ・1/10, 11、日本生物教育学会にて4単位生物の内容に関するシンポジウムが行われていることが報告された。
- ・藤原委員より、日本地学教育学会第3回常務委員会（12/14）の議事録について情報提供があった。

### 5 協議

#### (1) 次年度パブリックセッションについて

##### ○現在の進捗状況の確認

##### 講演者について

地学系 アクティブ・ラーニングをどう捉えたか 埼玉・与野高校 柴生田茜氏

地理系 現時点で未定

講演要旨 期日形式・締め切り等、宮嶋委員が外部講師に連絡済み

#### (2) 新「地学基礎」の内容検討について

##### ○検討課題の確認

事前に提案のあった「ストーリー性を重視し、地学の全分野に触れつつ、各分野でセレクトされた原理仕組みの説明（例えば走時曲線・HR図など）を盛り込んで、それを実験実習で確かめつつ、2単位で収めるもの」という課題の方向性について合意した。

##### ○各委員からの私案提案

小林、田口、根本、藤原、宮嶋の各委員から新「地学基礎」の検討の方向性、内容についての提案がなされた。

##### ○今後の検討の進め方について

3月中に次の内容の提言を出すべく準備を進める。提言文案については根本委員が作成する。

◇地学基礎の内容は、原理やメカニズムの解説が省かれていることが問題

→ 原理やメカニズムをきちんと説明する内容を加える（そのためには内容の精選が必要）

\*内容精選の案については、提言時（の懇談時）に草案段階のものでよいから、具体案を提示

◇物化生地の4領域の基礎科目必修が望ましいことを改めて訴える

次回小委員会までに、次の課題を各自が検討してくることを確認した。

◇新地学基礎の内容について

・ストーリー展開としては、宮嶋の3つの展開をたたき台にする

「宇宙と地球の誕生・元素の創成」、「地球の層構造・各層内での活動」、「地球の歴史と現在、未来」

・必ず学ばせたい概念は、生物教育会の示した、問形式（○○は、どのように△△しているのだろうか）のように表現する

- ・ \*項目表の大項目は「大問」、中項目は「中間」、小項目は「小問」に対応
- ・ 学ぶべき原理や仕組みを明確に示す
  - \* これは深く学ぶべき項目に相当する。(例) HR図
- ・ 科目特有の育成すべき資質・能力の育成に適した実験実習を盛り込むこと
- ・ 削除せざるを得ない概念は、宮嶋の新地学基礎案を踏襲
- ・ 必ず学ばせたい概念の内容を具体化するため、キーワードをつける
  - \* これもベースは2014年度A案の強調語句

◇新「地学基礎」で育成する資質・能力の達成を評価する考査問題例を作成する(担当 南島委員)

(3) 用語問題について(日本学術会議の阪大院理・佐々木氏との打ち合わせ)

佐々木氏の都合により、今回は打ち合わせが見送られた。用語検討のWG委員を次回小委員会までには確定することが確認された。

## 6 次回小委員会

2/11(水・祝) 10:00より、海城高校にて開催することを決定した。